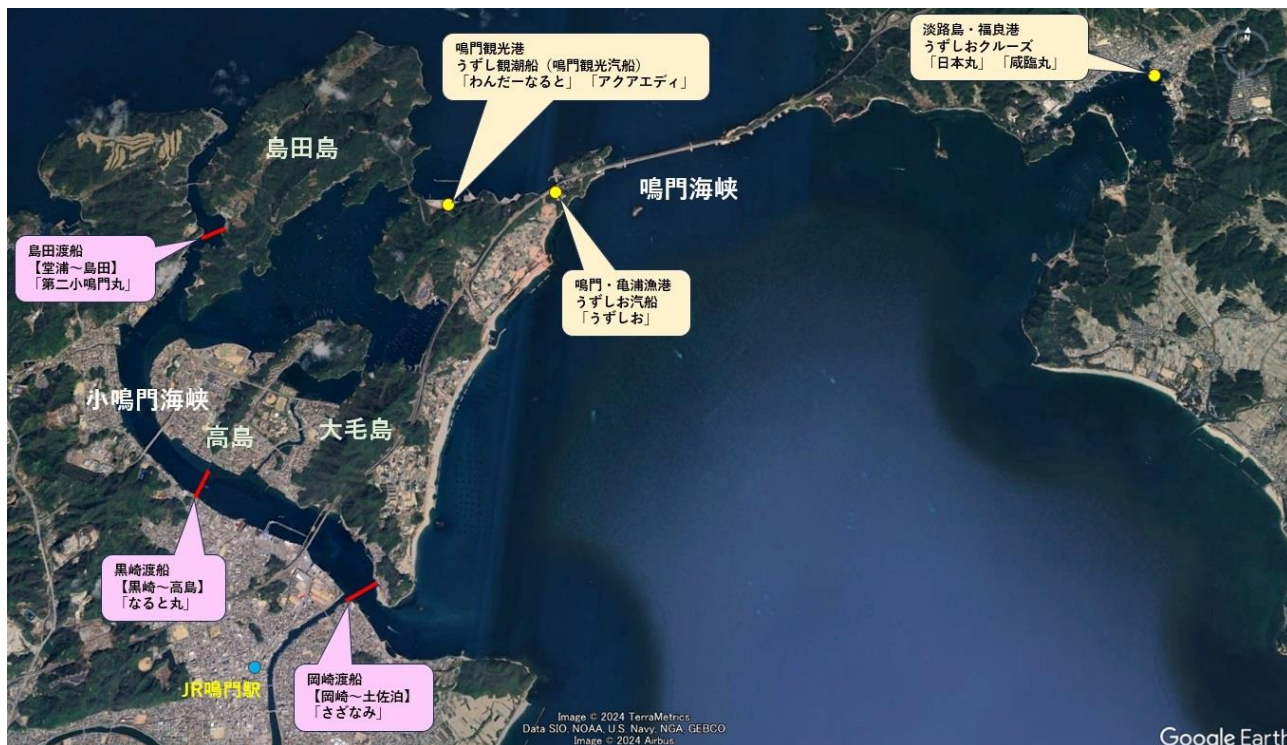


# 鳴門の観潮船と渡船

会員 福富 廉

以前の本学会のニュース（2020-39～42（0525）【徳島県内4航路写真その1～4】）を見て、今度、四国に行く機会があれば鳴門の渡船に乗ってみようと思っていたが、機会ができたので、今まで一度も乗ったことが無かった鳴門の観潮船の乗船と併せて、その様子をレポートしたい。なお、前記【その1】の長原渡船については、すっかりその存在を失念していたので、またの機会に行ってみたい。



## 1. 鳴門の観潮船

鳴門の観潮については改めて説明する必要も無いが、ちょうど行けるのが春の大潮の時期にあっており、調べてみると、3つの港から3社5隻の船が就航しており、どこのHPにも潮見表が掲載されていて、うず潮の見え方の期待度が記載されていた。初めてとしては、まず最大船社の大きな船に乗ることとして、うずしお観潮船（鳴門観光汽船）の「わんだーなると」の“特に大きなうず潮が期待できる便”を選んで乗船した。

乗船券売り場に行くと、係員が「今日は強風のため、渦は見られない。」と購入者其々に言っていた。“観光なんだし、自然現象なんだし、見る景色の受け止め方は皆其々”なので、こんな前置きは止めてほしいと思うのは私だけだろうか。景色は見られないと言われても登った展望台から雲の切れ間で客船を撮影できた時はとてもうれしかった経験もあるのだが。確かに、当日はかなりの強風で、午前中、小型船は欠航していて、この船上でも船は大きく傾き、ウェザーサイド（風上側）では船員が仁王立ちして「こっちには来ないで！」と言っていたくらいだ。そして、鳴門海峡の中心部は、いわゆる“逆巻く波”の状態ではあったのだが、後で大鳴門橋の“渦の道”からは結構きれいな渦も見えていた。これは、カルマン渦なのだと、改めて説明を見て知ったのだが。

(1) うずしお観潮船（鳴門観光汽船）

2隻運航で大型船の快適さと水中展望と小型船での迫力の使い分けをアピールにしており、乗り場の鳴門観光港が広大で団体利用も多いようである。



大型観潮船「わんだーなると」197GT、旅客定員399名 所要時間30分 1等（2階）／2等がある



小型水中観潮船「アクアエディ」旅客定員46名 所要時間25分 水中展望室がある

(2) うずしお汽船

鳴門公園や大塚国際美術館に近い亀浦漁港からの発着で、高速で所要時間の短さをアピールしている。他の観光地の遊覧船でも見られることだが、大手に伍して小型船ただ1隻で頑張っている。



小型高速観潮船「うずしお」旅客定員86名 所要時間20分

### (3) うずしおクルーズ (ジョイポート淡路島)

淡路島の福良港を発着港とする観光船。2隻の帆船型大型遊覧船を擁しており、船のユニークさと近畿圏からの近さをからアピールしている。鳴門海峡まで距離があり、所要時間が60分と長く、料金もそれなりに高い。私は今回ここに行くまで「日本丸」があることを意識しておらず、だんだん近づいてくる帆船の雄姿に目を見張った。なお、この日は、「威臨丸」は動いていないようだった。



「日本丸」383GT 旅客定員 700名



参考:「威臨丸」(淡路島の岩屋港にて) 390GT 旅客定員 500名



「日本丸」と鳴門市の飛島&飛島灯台

## 2. 鳴門市営渡船

鳴門海峡の東側には淡路島が横たわっているが、西側にもそれに比べると小さな3つの島があって、四国との間に小鳴門海峡がある。ヨットのクルージングへの興味の観点から、昔から知ってはいたが、その様子を見ることと、そこにある3つの渡船に乗ってみることが、今回の大きな目的だった。

3 渡船共、鳴門市営ながら運航は民間（主に地元の漁協が主体）に委託されていて、乗船料は無料。いずれも上陸用舟艇タイプの小型渡船で、人・自転車・原付のみ乗船できる。各渡船の近くにはそれぞれ橋があり徒歩でも渡ることができるが、通行者の便利さは言うまでも無い。

### (1) 岡崎渡船 (岡崎起点～土佐泊)

最も南側にあり、小鳴門海峡の南側を見渡すことができる。土佐泊は、かつて京都と高知（土佐）の途中にある潮待ち港だったようでその名があり、色々な史跡もあるようだった。船好きとしては、近くの徳岡造船の船台の先でそそり立っている建造中の内航船の船首が印象的だった。



「さざなみ」6.6GT 30人乗り 1995年12月進水 1日24往復



岡崎渡船場



土佐泊渡船場 左奥が徳岡造船

(2) 黒崎渡船 (黒崎起点～高島)

黒崎側は防波堤に突っ込んだような乗船場、高島側は長い橋を渡った先に乗船場があるのが、とてもユニーク。朝は概ね20分毎に便があり、自転車の高校生でそこだけはかなり賑わっていた。



「なると丸」7.3GT 43人乗り 1992年8月進水 1日23往復 (右) 市街に向かう高校生で賑わう朝の高島渡船場



黒崎渡船場



高島渡船場全景 右奥は小鳴門大橋

(3) 島田渡船（堂浦～島田起点）

堂浦側はバス停以外に付近に人家は無く、島田側の集落も 20 軒もあるや無しやの場所で、当然、便数も少ないが、堂浦側には押しボタンがあって、定刻の時間では無かったものの、呼べばすぐに来てもらえた。帰路は大きく遠回りして近くの小鳴門新橋を利用したが、小鳴門海峡の北側入口を望む風光明媚な場所で、大鳴門橋方面へ通ずる観光道路も整備されていた。



「第二小鳴門丸」 4.6GT 12人乗り 2002年10月進水 1日10往復



堂浦渡船場



島田渡船場



小鳴門海峡北口



小鳴門海峡南口



島田渡船から見る小鳴門新橋